

近年、イタリアと日本の関係が活発になったことは非常に注目すべきこと
であります。それは、最高レベルの二国間にも、また「日本におけるイタリア
2001年」や「日本におけるイタリアの春2007年」といった、充実したイニシ
ャチブが始まったことにも 顕われていています。そして本年、これらの催しを理想
的に受け継ぎ、大きく発展した形で「日本におけるイタリア2009年」が開かれ
ます。

伊日財団は、今年、設立後10年目を迎えます。同財団は、イタリアと日本の関
係強化に不可欠な貢献をしました。国をあげて大きい展覧会を実現させ、その
ことで、イタリア国民と日本国民の相互理解と歩み寄りを促進するのに理想
的な橋を築き上げるという、特別の役割を果たしました。

伊日財団の行動は、文化が持つ役割を積極的に見直させるものです。日本の
人々が我が国の豊かな芸術・文化に対して示す感受性と情熱に 応じて、経済やテ
クノロジーにおける関係も含めた、日本とのあらゆる関係が強化されるとい
う意味で、文化は貴重なルートなのです。

多くの表現形式を持つ、それぞれの文化遺産を交流させ、理解を深める要求
が増大している以上、イベントや催しの提案の継続に向けての要求おすべてを
進める必要があります。国をあげて展覧会をした経験は、イタリアがこのよう
な方針を選択したということを確認するものです。

したがって、日本との関係がますます豊かなものとなる中で、遠く見え
ても相互に強い魅力によって結ばれているイタリアと日本という、2つの世界
の間で、その 話や融合の道筋を定めることにおいて、伊日財団が主たる 談者
であり続けることを私は確信するものであります。

ジョルジョ・ナポリターノ
イタリア共和国大統領